

平成26年 「天使からのポエム」

受賞作品

1. 特別賞受賞作品

◆静岡市長賞

清水第六中学校 2年 佐藤 陸

「ぼくの本心」

いつの日からか
単身赴任の父との会話は
いつもメール。

お誕生日メールを送っても
父の日メールを送っても
返信は決まって
「勉強がんばれよ。」

心配してくれるのはわかるよ。
ありがたいと思ってる。
でもちょっと違うんだな。
たまには、
こんな返信どうですか。

「また、あの公園でキャッチボー
ルしような！」

平成26年 「天使からのポエム」

受賞作品

1. 特別賞受賞作品

◆静岡市議会議長賞

横内小学校 6年 奈良間 文

「いやな事 ストロー」

いやな事があった 母に話した
「くやしいね。」
一緒にくやしがってくれた
いやな事があった 母に話した
「つらいね。」
一緒に泣いてくれた
いやな事があった 母に話した
「わかってないね。」
一緒におこってくれた
いやな事があった 母に話した
「悲しいね。」
ずっとだっこしてくれた
不思議だな 母に話すと
いやな事がすうっと消える
今日は何を話そうかな
母の笑顔がうかぶ

平成26年 「天使からのポエム」

受賞作品

1. 特別賞受賞作品

◆静岡市教育委員会教育長賞

西豊田小学校 4年 原田 将希

「お父さんのまほうの手」

きのう、お父さんと手と手を合
わせた。

とてもかなわない、大きくて、
ぶ厚い手。

ぼくの手が食べられちゃうくら
い大きかった。

毎朝、手をつないで学校のと中
まで行くのが二人の日課。

何も話さなくても、ギュッとさ
れるとほっとする。

「今日一日がんばるんだぞ。」
のメッセージがあったかい手から
伝わってくる。

お父さんありがとう。

いつかお父さんの手をこえられ
るようにぼくは強くなる。

お父さん見ていてね。

平成26年 「天使からのポエム」

受賞作品

1. 特別賞受賞作品

◆静岡市校長会会長賞

清水第二中学校 2年 兼子 友之介

最近 話す事がない
仕事仕事って 何がそんなに
忙しいんだろう？
話さないから全然分からない
僕の事も分からないよね

僕が小さかった頃
泣いてなかなか寝ない僕を
何時間も根気強くあやして
寝かしつけてくれたって

想像したら 笑えてきた

そういえば いろんな所に
連れて行って くれたっけ

僕から話しかけてみようかな？
お父さん

平成26年 「天使からのポエム」

受賞作品

1. 特別賞受賞作品

◆静岡市PTA連絡協議会長賞

中田小学校 4年 伊藤 静々流

「天使ってだあれ？」

天使って、だれのことを
言ってるの？
やっぱり家族のために働
くお父さん
それともわたしのおせわ
をしてくれるお母さん
もしかしてわたしと遊ん
でくれる姉や弟
でもさ、わたしと仲よく
してくれる友だちかも。
あれ・・・？
天使っていろんな人にあ
てはまる
わたしの身の回りの人だ
けじゃない。世界中の人
々が天使かも。
やさしい人が天使かな？
ならわたしも天使かも

平成26年 「天使からのポエム」

受賞作品

1. 特別賞受賞作品

◆市P連母親委員長賞

賤機北小学校 6年 望月 優那

お母さんと朝けんかした
前の日にプリントをわたさなかつたからだ
「朝の忙しいときに読めないでしょ」
とお母さんはおこった
「わすれることもあるよ」
とわたしもおこって言い返した
おこりながら学校へむかった
と中でふり返るとお母さんがいつものように手をふっていた

一年のときからずっとわたしが
見えなくなるまで毎朝お母さんは手をふってくれている

帰ったらお母さんと仲なおりしよう

平成26年 「天使からのポエム」

受賞作品

2. 優秀賞受賞作品

葵小学校 4年 稲川 学一

「手」

お父さんの手、太くてゴツゴツ。
お母さんの手、細くてしわしわ。
お姉ちゃんの手、白くてスベスベ。
ぼくの手、黒くてモチモチ。

どの手も大好き
ずっとつないでいたいよ
つないだままずっと歩いて行きた
いよ

平成26年 「天使からのポエム」

受賞作品

2. 優秀賞受賞作品

葵小学校 4年 稲葉 啓也

「父ちゃん」

父ちゃんは、きびしい。
「自分のことは、自分でやれ。」
「しっかり返事しろ。」
こんなふうには注意されたら、ぼくはチエツて思う。
でも、昨日はおふろでぼくの話
を聞いてくれた。
おとといは、いっしょに工作し
てくれた。
その前は、旅行の計画を立てて
くれた。
ぼくは、父ちゃんに愛されている。
きびしいのも愛だって、ぼくは
分かっている。
ぼくは、父ちゃんが大好きだ。

平成26年 「天使からのポエム」

受賞作品

2. 優秀賞受賞作品

服織小学校 4年 中川 みゆ

「世界一のせなか」

お母さんのせなかはどうして
こんなに気持ちいいんだろう？
悲しい時やつかれた時
お母さんのせなかにギューとし
がみつくと
おなかにお母さんのあったかさ
がほんわか伝わってくる
なぜかほっとしてねむたくなる
赤ちゃんのころからずっと
おんぶしてもらっていたからか
な？

私は大きくなって
重たくなってきたけれど
これからも時々
こうしてお母さんのせなかにお
んぶしてね

平成26年 「天使からのポエム」

受賞作品

2. 優秀賞受賞作品

長田東小学校 4年 浅井 瑠菜

「しあわせ」

わたしはきがついた
お母さんがわたしをうんでくれて
しあわせにすごせてることを

わたしはしあわせだ
かぞくがいるからしあわせだ

わたしはきがついた
お父さんはわたしがうまれてしあ
わせなこと

わたしはしあわせ
やさしい人にかこまれているから

しあわせ・・・しあわせはみじかな
ところにある

平成26年 「天使からのポエム」

受賞作品

2. 優秀賞受賞作品

新通小学校 6年 内野 大樹

「もしも～し！！」

「もしも～し！！」

おじいちゃんの電話での第一声。
受話器を耳から離してもびんびん
ひびくくらい大きな声だ。

そのおじいちゃんが心臓の手術
をした。何時間もかかった。終わ
ってからますますをかけて電気で
心臓を動かしていた。

ぼくはとても心配だった。あの
元気なおじいちゃんにもう会えな
いんじゃないかと思った。

手術から五日後に電話が来た。

「もしも～し！！」

びんびんひびく大きな声。前と
同じおじいちゃんの声だった。

おじいちゃん、元気になってく
れてありがとう。ぼくは大きな声
のおじいちゃんが大好きだよ！！

平成26年 「天使からのポエム」

受賞作品

2. 優秀賞受賞作品

中藁科小学校 6年 谷津 みなも

母ちゃんは、すぐおこる
母ちゃんは、すぐダメっていう
母ちゃんは、すぐ文句いう

小さい時は思えなかったけど
今ならこんな風に思えるよ

母ちゃんは、おこってくれる
母ちゃんは、ダメって言うてく
れる
母ちゃんは、注意してくれる

だから母ちゃんにお礼をいいま
す
いつも
いつも
ありがとう

平成26年 「天使からのポエム」

受賞作品

2. 優秀賞受賞作品

西豊田小学校 6年 本間 晴希

「きっと」

やさしいけど きびしい
わからない
すぐにかわってしまう

さっきまでわらってたのに
いまはおこってる
さっきまでおこってたのに
いまはわらってる
わからない
すぐにかわってしまう

でも、

やさしいけど きびしい
わらうけど おこる
それが
愛されてるって ことなんだ
きっと

平成26年 「天使からのポエム」

受賞作品

2. 優秀賞受賞作品

東源台小学校 6年 藤本 梨緒

「大人に「ありがとう」」

お母さんはいつもしかる
私がいやなほどに
私があきれほどに
でもそれは私のために
おこって、しかってくれるんだね

お母さんはいつも笑う
私が喜ぶように
私が楽しくなるように
でもそれは私のために
笑って、ほめてくれるんだね

お母さんの行動が
私のパワーになる
お母さんの行動が
私の成長につながる
お母さんは私の味方だ
いつもありがとう

平成26年 「天使からのポエム」

受賞作品

2. 優秀賞受賞作品

東豊田中学校 2年 高橋 龍矢

「父の偉大さ」

職場体験の中で、
見えた父の背中は立派だった。
接客してた父の顔は、
笑っていた。
どんなに目立たない仕事でも、
父は真剣だった。
こんな父の後ろ姿を見て、
学んだ。
職場で働いていた父は、
人一倍かがやいていた。
そんな父が、
かっこよかった。

平成26年 「天使からのポエム」

受賞作品

2. 優秀賞受賞作品

清水第二中学校 2年 山田 航太郎

「今日の天気は？」

僕はずっと遊んでる

母の表情曇ってく
遂に雷おちてきた

僕も心を曇らせて
勉強机で雨宿り

勉強おわって部屋でると

くものはれてるお母さん

それみてぼくのくもったココロ
だんだんキラキラはれてきた

今日の天気は曇り時々雷のち晴れ

平成26年 「天使からのポエム」

受賞作品

2. 優秀賞受賞作品

清水第六中学校 2年 大多和 花菜

「豆ご飯」

「豆ご飯食べるかね？」
5月になると元気な声でおばあちゃん
が豆ご飯を届けてくれる。
あの日も美味しかったと伝えよう
と思ったのに突然おばあちゃんは
いなくなってしまった。
もう、あの豆ご飯も豪快に笑う太陽
のようなおばあちゃんの声も、
届かないんだね。でもね・・・
私にはいつもおばあちゃんがくれ
た沢山の励ましの言葉が、明日も
明後日も来年の豆ご飯の季節も、
ずっと聞こえるから今度は私が皆
の太陽になって明るく生きるよ。
そして、来年私が豆ご飯を炊いて
おばあちゃんに届けるからね。

平成26年 「天使からのポエム」

受賞作品

2. 優秀賞受賞作品

清水第八中学校 2年 佐野 小紅

「世界一のお弁当」

朝起きた時
ただようおいしそうな
いいにおい
私のために早起きして
作ってくれたんだね
楽しみだなあ
今日のお昼のお弁当

お弁当箱を開けた瞬間に
あふれでる
母の愛とやさしい笑顔
私の心からもあふれでる
感謝の気持ち
「ありがとう」

世界に一つだけの
世界で一番おいしい
私の母のお弁当

平成26年 「天使からのポエム」

受賞作品

3. 優良賞受賞作品

服織小学校 4年 臼井 真雛

「わたしの安心する場所」

お母さんの「ただいま」の声は
わたしを安心させてくれる。

お母さんのハグはわたしを安心
させてくれる。

お母さんといっしょに入るおふ
ろはたくさん何でも話ができ安
心させてくれる。

お母さんのミネストローネは温
かくてほっとして安心させてく
れる。

でもわたしが一番安心する場所
はお母さんとギュッと手をつなぎ
ながらねむるベットの中。

平成26年 「天使からのポエム」

受賞作品

3. 優良賞受賞作品

久能小学校 4年 才茂 茉由

「わたしの気持ち」

お姉ちゃん、わたしが一人にいる
と、
「あそぼう。」っていうの。
一人でいたいのに。
学校から帰ってくると、
「今日何が一番楽しかった。」って
いうの。
いつもとっしょなのに。
宿題できなくて泣いていると、
「どうしたの。」っていうの。
自分で、できるもん。
お姉ちゃんはわたしのこと、
心配してくれてるのかな。
なんだかふだんいえない、
「ありがとう。」っていう気持ちが
ふくれあがってくる。
いつかはありがとうって
いいたいな。

平成26年 「天使からのポエム」

受賞作品

3. 優良賞受賞作品

清水岡小学校 4年 源平 晃一朗

「命は続くどこまでも」

今ぼくがここにいるのは
お父さんとお母さんが
育ててくれたから
お父さんから
ひいひいおじいちゃんまで
いやもっともっと昔の人たちが
結こんして生きて来たから
今のぼくがいる
まるで命は線路みたいに
つながっている
ぼくが生きないと
線路が行き止まりになる
だから大事に生きよう
いつか大人になって
結こんしてお父さんになったら
子どもをうんと大事にしよう
ぼくの血がずっと続くように
今を大事に生きよう

平成26年 「天使からのポエム」

受賞作品

3. 優良賞受賞作品

清水高部東小学校 4年 高橋 涼風

「うちのにんぷさん」

うちのにんぷさんは
おなかが大きいのに
休む事なくお母さん

歩くのも大変そう
こしだっていたそう

たくさん動いて赤ちゃん
だいじょうぶかなあ
あまり走らないでほしいなあ

予定日当日元気な
女の子が生まれた
お母さんは泣きながら
わらっていた

今日も元気にお母さん
休む事なくお母さん

平成26年 「天使からのポエム」

受賞作品

3. 優良賞受賞作品

清水興津小学校 4年 山本 扇音

「母の太い線」

母の太い線

一本の太い線
おなかにある太い線
どうしたんだと心配だ

だけどその線
大事な線

姉と弟と
そして わたしが生まれた
大事な線。

平成26年 「天使からのポエム」

受賞作品

3. 優良賞受賞作品

賤機中小学校 6年 前川 雅晴

いつも、ぼくのことを守ってく
れるお母さん。
ぼくは弱くて泣き虫だから
友達に嫌なことされたり
言われたりする
そんな時はぼくの心によりそっ
てくれる。
どうしてそうなったのか、いっし
よになやみ、どうしたらいいか
いっしょに考えぼくに前を向く
力を与えてくれる
「大丈夫だよ」
お母さんの大丈夫は心のお守り。
嫌だなと思ってても学校に行く
パワーを与えてくれる
いつまでも頼れるわけじゃない
けど、いつまでもそばにいてね
ありがとう お母さん

平成26年 「天使からのポエム」

受賞作品

3. 優良賞受賞作品

大河内小学校 6年 望月 大誠

「ひとつの命」

命は ひとつ

どんな人にも ひとつ
大とう領にも
金魚にも、犬にも、
ぼくにだって ひとつ

そのひとつの命が
どれだけ大切なものか
ぼくには、 わかる

大好きだった パパの命
やさしかった ねえねの命

失いたくなかった大切な命
たった ひとつの命

平成26年 「天使からのポエム」

受賞作品

3. 優良賞受賞作品

長田南小学校 6年 濱嶋 俊吾

「ちっぽけな紙」

ぼくが家に帰っても
お母さんがいない時は、
広告のうらに書かれた
ちっぽけな手紙が
置いてある。
ちっぽけな手紙には、
ぼくの事を笑わそうと
書かれている、
ぼくはこのなにげない
手紙につい笑ってしまう

最後に「勉強がんばってね」
という一言で終わる

ぼくはこのなにげない
手紙が好きだ。
いつもありがとう

平成26年 「天使からのポエム」

受賞作品

3. 優良賞受賞作品

長田北小学校 6年 樋川 太陽

「お母さんの笑顔」

家に帰っても
お母さんはいない
今ごろは仕事だろう

お母さんはつらい時にも
ぼく達には笑顔を見せる

その笑顔のおくはどうなって
いるのだろう
知りたいような、
知りたくないような。

とにかくお母さんには
ぼくにたよってほしい
いつも無理せず
がんばってほしい
そして一つだけいいたい
「泣いてもいいよ」と

平成26年 「天使からのポエム」

受賞作品

3. 優良賞受賞作品

清水浜田小学校 6年 村松 薫子

「私の名前」

お父さんが決めた私の名前
長いし顔と合わない気がするし
漢字だと画数が多くて大変だし
正直いい名前と思わない
でもお父さんが私に会う前から
考えてくれた特別な名前
これからは名前がきらいって
言わないで
ちょっと好きって言おうかな
ありがとね 大好きだよ
お父さんのことも私の名前も

平成26年 「天使からのポエム」

受賞作品

3. 優良賞受賞作品

城内中学校 2年 高田 真帆

お母さんに怒られた
絶対に口をきくもんか！
私は部屋に引きこもる

ごはんだよ
お母さんのやさしい声
でも
私は椅子でドアをふさいだ

しばらくして
お母さんの声はしなくなった
私はそろそろ部屋を出た
誰もいない
キッチンのテーブルには
ラップに包まれたご飯が一人分
お母さんありがとう
そして
ごめんなさい

平成26年 「天使からのポエム」

受賞作品

3. 優良賞受賞作品

安東中学校 2年 柚木 隆良

「豚肉のソース焼き」

僕が好きなものは、母さんが作ってくれる「豚肉のソース焼き」。元気の源だ。いくら疲れていても、これさえ食べれば、疲れはふっ飛ばす。だから大好きだ。

ある日、部活から帰ったら、いい匂いがした。すぐにわかった、あれだと。すぐに手を洗い、席についた。待っている時間も楽しいのだ。熱々の状態で食べられる幸せ。いつまでも感じていたい。

僕はこれの作り方を知らない。だけど、いつかは教わりたい。作れるようにはなりたい。そしていつか子供に食べさせたい。母さん程上手くは作れないかもしれないけど。その分、今は母さん味を、しっかり覚えておきたい。

平成26年 「天使からのポエム」

受賞作品

3. 優良賞受賞作品

竜爪中学校 2年 尾藤 未空

「ありがとう」

「ありがとう」
大切な言葉。でも、伝えるのが難しい言葉。

「ありがとう」
小さいころは言えたのに、いつしか言えなくなっていた。

「ありがとう」
心の中にたまっていく。言えなかった言葉が山をつくっていく。

「ありがとう」
いつも自分の事のように気にかけて、見守ってくれるやさしい母に伝えたい。

「ありがとう」
いつもは、はずかしくてなかなか言えないけど、伝えてみようかな。心の底からの

「ありがとう」

平成26年 「天使からのポエム」

受賞作品

3. 優良賞受賞作品

竜爪中学校 2年 井上 七海

うるさい
後でやるから
分かった分かった

本当は言いたくないんだけど
勝手に口が動くんです。

ありがとう
ごめんなさい
行って来ます

本当は言いたいんだけど
口は動いてくれないんです。

平成26年 「天使からのポエム」

受賞作品

3. 優良賞受賞作品

清水第六中学校 2年 石川 七男斗

「窓からの手」

「いってらっしゃい。」
家を出て学校に向かう時
必ず窓から手をふってくれる、
お母さん。

嫌なことがあっても、
たとえけんかしていても、
あの窓からの手を見れば、
全部忘れちゃう。

何でだろう。
何で忘れちゃうんだろう。
それがお母さんの力なのかな？

今日も部活があって大変だけど、
頑張れるような気がする。
あの窓からの手を見れば。

平成26年 「天使からのポエム」

受賞作品

4. 佳作受賞作品

服織西小学校 4年 寺尾 陸

「お母さん」

「勝手にしな。」
と言うくせに
勝手にやると
すぐおこる。

自分が悪いのは知っている。
でも、うるさい。
もっとやさしく言っても
いいじゃないか。

けれど…
しょうらいのために
言ってくれてるのはわかっている。
だから
やっぱりやさしいお母さん。

平成26年 「天使からのポエム」

受賞作品

4. 佳作受賞作品

峰山小学校 4年 本多 唱和

「一度のため息」

ある日の台所

「はあ」

ため息が聞こえた
「いやなことでもあったのか
それともつかれているのかな」

お母さんのなやみ
一つふえたかな

平成26年 「天使からのポエム」

受賞作品

4. 佳作受賞作品

東豊田小学校 4年 松村 陽奈

私はとてもね起きが悪い。
お姉ちゃんも妹もすぐ起きるのに
私は目ざましをとめてねてしまう。
そんな私をお母さんは毎朝起こし
にきてくれる。

「おはよう朝だよ、起きてー。」
からはじまり色々声をかける。
時々ねながらわらってしまう。

そのうちちよこちよとくすぐり
だす。
私にのってきたりもする。
さすがの私もパッと目をさます。

私はお母さんとのこんなやりとり
がうれしくてなかなか起きられな
い。

平成26年 「天使からのポエム」

受賞作品

4. 佳作受賞作品

富士見小学校 4年 小林 鷹太郎

「母さんは、ぼくが好き」

母さんは、
ぼくが好き。
母さんは、
ぼくが好きなものが好き。
ぼくは、
ヤモリが好き。
だから母さんも、
ヤモリが好き。
ぼくは、
うなぎが好き。
だから母さんも、
うなぎが好き。
ぼくは、うなぎを見てるのが好
き。
母さんは、食べるのが好き。

平成26年 「天使からのポエム」

受賞作品

4. 佳作受賞作品

清水不二見小学校 4年 野賀 稜斗

「まほうの言葉」

「大丈夫。今はだめでも、いつか
きっと出来るようになる。」
「ムリだよー。ぼくできないもん。」
「お母さんが大丈夫って言ったら
大丈夫なんだよ。」
「なんで？」
「だって、お母さんはまほうつか
いなんだもん。」

#NAME?

まほうつかいなら、まほうで今す
ぐぼくを天才にすればいいのにさ。
でもなんだかほっとする。
お母さんの「大丈夫」はあったか
い。本当に大丈夫な気がしてくる。

だから今日もがんばろう。

平成26年 「天使からのポエム」

受賞作品

4. 佳作受賞作品

駒形小学校 6年 伊沢 颯人

「あたりまえ」

家にいるのが あたりまえ
ご飯を食べるのあたりまえ
迎えに来るのもあたりまえ
お風呂に入るのあたりまえ
温かい布団も あたりまえ

あたりまえ あたりまえ
すべてのことがあたりまえ

あたりまえすぎて 気づかない
あたりまえは いつまであるの
あたりまえは どこまで続くの

大切なものは はっきり見えない
そばにあっても 気づかない
でもいつか
気が付く日がきつとある
あたりまえって ありがたい

平成26年 「天使からのポエム」

受賞作品

4. 佳作受賞作品

中田小学校 6年 石川 亜月

私はお母さんが好き。
でも、いっしょに手はつながない。
い。
恥ずかしい
友達発見。つないでた手もはな
れてる。
その後、どうしてもつなげない。
人がいると恥ずかしい。
つなぎたい。
つなげない。
つなぎたい。
いつまでもずっと。

平成26年 「天使からのポエム」

受賞作品

4. 佳作受賞作品

西豊田小学校 6年 佐野 志帆

「おかえりの声」

家へ帰れば聞こえてくる
おかえりの声
母のあたたかい声
私はほっとして言う
ただいま

おかえりは
ほっと気持ちがやわらぐ言葉

母は時々家を留守にする
買い物とか 色々な理由で
そんな時 帰ってきても
おかえりの声はない
静かな家が冷たく感じる
ただいま
帰ってきた母の声でした
もちろん私はこう言う
おかえり

平成26年 「天使からのポエム」

受賞作品

4. 佳作受賞作品

飯田東小学校 6年 石川 東馬

「宝物」

お父さんお母さんにとってぼくは
宝物。
ぼくにとってお父さんお母さんは
宝物。
おばあちゃんおじいちゃんにとっ
てもぼくは宝物。
ぼくにとっておばあちゃんおじい
ちゃんも宝物。
弟にとっても、ぼくは宝物。
ぼくにとっても、弟は宝物。
みんなみんな宝物。
こんな家族とくらせるなんてなん
て幸せなんだ。
みんなみんなが宝物。

平成26年 「天使からのポエム」

受賞作品

4. 佳作受賞作品

安東中学校 2年 小林 妃藍

「輝ける素」

子供の殆どは勉強が嫌いだ。でも先生は、私達が好きになるような秘密のスパイスを持っている。

授業。難問に衝突。そんな時、先生の魔法のスパイスが教室に降り注ぐ。シャープペンが走り出した。先生は魔法使いだ。

休憩。質問に行く。先生は優しく答えてくれる。凛々しい瞳と横顔。先生はかっこいい。

放課後。悩み相談。先生は人生の先輩としてアドバイスをくれる。その言葉に安心する、心がほっこりする。先生はあったかい。

今日も先生は、沢山のスパイスを持って教壇に立っている。私も秘密のスパイスを手に入れて、輝けるマントで羽ばたきたい。

平成26年 「天使からのポエム」

受賞作品

4. 佳作受賞作品

藁科中学校 2年 山本 唯

「大切な言葉」

ゆいちゃんのためならえんやこら
この言葉いつも思いだすよ
だって大好きな言葉だから
たくさん言ってくれたね
どんな時も助けてくれたね
笑顔で
優しい声で
そんなところが大好きだったよ
また、あの笑顔を見たいな
空の上で
私の大好きな笑顔で
笑ってくれてたら嬉しいな

ばあば

大好きだよ

平成26年 「天使からのポエム」

受賞作品

4. 佳作受賞作品

長田西中学校 2年 中村 陸

「母」

考えてみたことも無かった
僕の食事や部活日に弁当をつくる
年中無休の料理人
汗まみれになったシャツを洗う
腕のいいクリーニング屋
「いってらっしゃい」「おかえり」
毎日家の玄関で送迎する
笑顔の素敵なウェイトレス
それらはみんな「母」なんだと
母はいつもどこかで
僕を応援してくれている
僕を支えてくれている
そんな母に送られて
僕は今日も学校へ向かう
少し反抗してしまうことがあって
なかなか口に出せなかったけれど
やっと分かったよあなたの大事さ
今までありがとう

平成26年 「天使からのポエム」

受賞作品

4. 佳作受賞作品

長田南中学校 2年 杉山 温菜

「静岡一短い家族への手紙」

お母さんからもらった

かぞえきれないもの

私はきっと

かぞえきれぬほどしか返せない

平成26年 「天使からのポエム」

受賞作品

4. 佳作受賞作品

清水庵原中学校 2年 望月 安未

「母の背中」

大きな背中。
小さくもろくこわれそうな背中。
涙をこらえ肩をふるわせる背中。
おこった後の近よりにくい背中。
歩いている背中。
すわっている背中。
料理を作っている背中。
悲しそうな背中。
楽しそうな背中。
母の背中。
何回も
たくさんの
背中を見てきたけれど
どれもこれも
私を育ててくれた
大切な
大好きな
母の背中だ。